



Point

ネギの作型と病害虫に有効な薬剤を確認して、適期作業と防除の徹底を！



秋田地区営農センター 主査 澤田石 仁

ネギの栽培スケジュール

●: 播種 ▲: 定植

| 作型 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 大苗早どり (夏扇パワー 他) | ▲ | | | ● | ● | | | | | | | ▲ |
| 夏どり (夏扇パワー 他) | ▲ | ▲ | | ● | ● | | | | | | | ▲ |
| 秋冬どり・囲い (夏扇4号 他) | ● | ● | ▲ | ▲ | | | ● | ● | | | | |

病害虫防除

●べと病・黒斑病・葉枯病

梅雨時期(6~7月)と10~11月の年2回がべと病の発病適期で、気温13~20℃、日照時間1時間以下、4mm以上の降雨となると発病しやすくなります。発病したあとは、早めに防除してください。黒斑病や葉枯病は、8~9月の高温期に草勢が衰えると発病が多くなります。

| 薬剤名 | 倍率 | 使用時期 | 使用回数 |
|------------|--------|----------|------|
| プロポーズ顆粒水和剤 | 1,000倍 | 収穫14日前まで | 3回 |
| メジャーフロアブル | 2,000倍 | 収穫前日まで | |
| ヨネポン水和剤 | 500倍 | 収穫7日前まで | 4回 |

●さび病

発病適期は初夏から梅雨時期と、秋期です。多肥条件では病原菌が葉の中に侵入しやすくなり、多発する要因となります。また、平均気温6~20℃で、結露時間が長く、風が少ないと発生しやすくなります。病斑が増えてからの防除は効果が劣るため、早期防除を心掛けましょう。また、発生株の圃場外での処分を徹底してください。

| 薬剤名 | 倍率 | 使用時期 | 使用回数 |
|--------------|--------|----------|---------|
| テーク水和剤 | 600倍 | 収穫14日前まで | 3回 |
| ラリー水和剤 | 2,000倍 | 収穫7日前まで | |
| アミスター20フロアブル | | | 収穫3日前まで |

●軟腐病

土壌の湿度が高く、高温(28℃~34℃)になると多発します。昨年発生した圃場は特に注意して、防除を徹底してください。かん水は朝夕の涼しい時間帯に行い、日中のかん水は被害を助長するため避けましょう。

| 薬剤名 | 使用量 | 使用回数 | 使用時期 | 防除時期 |
|----------|----------------------------|------|---------------------------|--|
| オリゼメート粒剤 | 6kg/10a ※砂地は 3kg/10a | 2回 | 土寄せ時 収穫30日前 ※夏ネギは注意 | 夏ネギ (1回目) 5月下旬~6月上旬 (2回目) 6月下旬~7月上旬 秋冬ネギ(1回目) 6月下旬 (2回目) 7月中旬 |

●ネギアザミウマ・ネギハモグリバエ

高温で少雨の年に多く見られます。ネギアザミウマは成虫や幼虫が葉の組織を傷つけるため、葉が白いかすり状となります。ネギハモグリバエは、寄生幼虫が葉の表皮内を食害します。防除を怠ると大発生する可能性があるうえ、気温が高い近年は多発傾向のため、十分に注意してください。7月中~下旬の急増期に効果の高い農薬を散布しましょう。

| 薬剤名 | 倍率・使用量 | 使用時期 | 使用回数 |
|----------|--------------|---------|------|
| アグロスリン乳剤 | 2,000倍 | 収穫7日前まで | 5回 |
| ダントツ粒剤 | 3~6kg/10a | 収穫3日前まで | 4回 |
| ディアナSC | 2,500~5,000倍 | 収穫前日まで | 2回 |
| グレーシア乳剤 | 2,000~3,000倍 | 収穫7日前まで | |